

日々進化する医薬の世界で的確な翻訳を目指すために— 翻訳支援ツールを使いこなそう

専門用語の多い医薬翻訳。仕事の効率を上げるには翻訳支援ツールの活用が欠かせない。翻訳支援ツールの魅力と代表的な翻訳支援ツールを紹介しよう。

● 翻訳支援ツールとは？

翻訳支援ツールは、2つの種類に大別できる。ひとつは原文と訳文の対訳をデータベース（翻訳メモリ：Translation Memory）化して、それを参照しながら翻訳するツールである。類似の文章が多いドキュメント、例えばバージョンアップしたマニュアルや容量の大きなジョブの翻訳に向いている。代表的なものに「TRADOS」がある。コンピュータ翻訳では標準ツールとなっているため、翻訳業界ではもっともユーザーが多いソフトウェアである。

もうひとつは、機械翻訳ソフトと翻訳メモリを組み合わせたソフト。対訳のデータベースを活用できる部分は翻訳メモリをいかして翻訳し、参照できない新しい文章は機械翻訳に下訳させて、翻訳者はできた訳文を編集しつつ翻訳を進める。代表的なものに「PC Transer」がある。

● 使うメリットは？どんなものを使う？

翻訳支援ツールを使うと翻訳作業はどう進化するのだろうか？まず、用語や表現の統一が図れること、訳漏れチェックなど品質管理ができる点は大きい。また、翻訳メモリは使い込めば使い込むほど精度が上がり、作業効率がアップしていくのもフリーランス翻訳者にとっては魅力的だ。

ただ、あくまで翻訳の“支援ツール”であり、ツールのタイプによって利便性は異なる。例えば翻訳メモリ型のツールは、自分が訳したものを生かして、連動する辞書や用語集を参照して作業

効率や品質を上げることができる。一方で、あくまでも原文と訳文の対訳をベースとしているため、それまでの蓄積してきたジャンルとは異なる文書、類似文章がない文書では翻訳メモリがあまり役に立たない。

また、機械翻訳ソフトと翻訳メモリを組み合わせたソフトでは、翻訳ソフトが下訳した部分を編集し直す必要があるため、場合によっては自分で訳したほうが早いというケースも考えられる。最近では「TRADOS」の翻訳メモリと互換性を持たせたソフトが手ごろな価格で登場してきたり、一般向けの機械翻訳ソフトが翻訳メモリ機能を充実させるなど、翻訳支援ソフトを翻訳者が導入しやすい環境が整いつつある。価格や性能はさまざまで、自分の仕事の内容に合わせて選びたい。

今回現役の医薬翻訳者20人にアンケートにご協力いただいたが、約半数の方がなんらかの翻訳支援ツールを活用していた。

医薬翻訳者が使っている翻訳支援ソフト

「対訳君」	88888
「PC Transer」	88888
「TRADOS」	88
「Transit」	88
「ATLAS」	8
「The 翻訳」	8

(8=1人)
(編集部実施アンケートより)

ここでは、翻訳者のアンケートでも名前が上がっていた、「TRADOS」「Transit」、さらに「対訳君」「PC Transer」「The 翻訳」の医学版を紹介しよう。

ココが使える！「対訳君 医学版」の特長

point 1 医薬専門用語や統計用語など、充実の辞書を同時に検索

「対訳君 医学版」には、「対訳君」に内蔵されている「英辞郎」、「ライフサイエンス辞書」に加えて、特別に編纂された医療統計専門辞書「医療統計用語辞典」も搭載しており、見出し語は170万以上。さらに別売で「ステッドマン医学大辞典+医学略語辞典」や、「南山堂医学大辞典プロメдика」、またEPWING形式の100タイトルを超える市販辞書を登録することができる。

調べたい単語表現をダブルクリックするだけで、複数の辞書データの検索結果が表示される。それを貼り付けて使用すれば、翻訳作業を大幅に効率化することができるのだ。

point 2 実際の医学書やデータからの生きた用例で的確&格調高い翻訳に

翻訳者にとっては語学情報だけでなく、専門用語、背景知識、薬剤情報、論文類出表現などの医学用例は貴重な情報である。「対訳君 医学版」には、「医学英語慣用表現集」、ほぼ全科を網羅する「メルクマニュアル」、臨床試験に関する表現が豊富な「最新がん情報」など、約11万もの用例を内蔵している。

豊富な用例を参照することで、格調の高い用語を得ることができる。英語論文の査読はもちろん、論文などの高度な日英翻訳に特に役立つ。

また、内容の濃い用例を通して読めるので、医学知識、周辺知識の吸収にもつながる。

point 3 翻訳メモリへの登録も簡単。TRADOSなどとも連動

原文と翻訳した文章を対訳データとしてメモリに登録できる。フォルダを作成するだけで、新しい対訳データをどんどん登録でき、操作も簡単だ。翻訳しながら登録すれば、その対訳データがすぐに引き出るので翻訳のスピードは格段にアップ。新薬申請や臨床試験に関する連続性のある翻訳などにおいては、過去の翻訳を登録しておく、使いまわしができるため非常に役に立つ。登録した内容は、データ変換すれば「TRADOS」などの翻訳メモリソフトに取り込んで使用できる。また他のソフトウェアから、検索語を「対訳君」に送ることも可能だ。

point 4 ネット検索もラクラク

医学・薬学の世界は日進月歩。最新の情報を得るにはウェブは欠かせない。「対訳君」ではブラウザなどを立ち上げて用語入力しなくても、「対訳君」から直接ネットを起動してウェブ検索ができる。調べた用語を翻訳メモリに登録すれば、自分だけの翻訳資産がどんどん増やせる。

point 5 用語の統一が簡単。Macにも対応

医薬翻訳の場合クライアントから大量の用語集が配布されるケースが多い。また、翻訳仲間同士で情報を共有することもある。そんな時にエクセルの一覧表のままだと探すのも大変だが、データを変換して「対訳君」に一括登録すれば、用語の統一も簡単に図れる。

また、医療関係の現場にはマックユーザーも多いが、「対訳君 医学版」はマッキントッシュにも対応している点も利便性が高い。